

私たちが目指す世界

(原文)

御法川 慶大 (13 歳)

兵庫県

須磨学園中学校

近年、ウェルビーイング (wellbeing) を重視する動きが世界でも日本でも広がっています。

ウェルビーイングとは、「身体的」「精神的」そして「社会的」にも全てが満たされた状態のことを意味します。私が初めてこの言葉を聞いた時、一人ひとりが持っている悩みに寄り添い、人間本来の生き方や考え方を大切にされた考え方であり、とても共感したのを覚えています。一人ひとりの幸せに基づいた社会が築くことができれば、どんなに素晴らしいだろうと思います。

一方で、こんな良い話が現実社会でうまくいくのかな、と疑問にも思っています。例えば、毎日のように報道されている軍事進攻などのニュースからは、ウェルビーイングとはほど遠い人々同士の争いが日々行われています。また、飢餓・差別・自殺のニュースなど、世の中には、ウェルビーイングを実践しているとは到底言えないような現実が山のように存在しています。

これらの問題を解決していくために、まずは私にとって身近な学校を例に、ウェルビーイングと現実を考えてみました。一般的に、多くの中学校や高校では、勉強などの成績で順位がつくことが多くあります。恐らく、順位をつけることは、点数で合否が決定する大学入試に向けたトレーニングであることや、やる気をもって勉強するという目的があるので、悪いことだとは思いません。

しかし、ウェルビーイングの観点に立つと、テストの点数や順位だけで、幸せがはかれる訳ではないことに気づきました。例えば、テストで高い点数を取るために夜遅くまで勉強し、体調を壊してしまうこともあるでしょうし、順位が良くても友達ができず悩んでいることもあるでしょう。よって、必ずしも心が満たされているとは言えません。逆に、たとえ順位が低かったとしても、勉強を心から楽しんでいて、次はもっと頑張ろうとやる気に満ち溢れている人も多いと思います。しかし、みんながその気持ちを感じ取ることができなければ、成績の順位そのままその人を決められてしまいます。したがって、テストの点数や順位だけで、人の幸せは測ることは、それ以外の頑張りや気持ちを排除するような少し危険な考え方だと気づかされました。

このように、私の学校生活においても、今までの考え方や物事の見方を変える必要があると感じています。一人ひとりの取り組みや意見を尊重し認め合える環境づくりが、ウェルビーイングにつながっていくと思います。

世界には、多くの人種や言葉があり、それを一人ひとりが一つの観点だけで、排除したり、分類した

りすることは到底できません。

将来、私が社会に出て働くようになったときは、会社の利益だけではなく、働いている人や世の中の心に寄り添い合えるようにしたいと考えています。会社であれば、売り上げを伸ばしていくことも重要だと思いますが、一人ひとりの個性を理解し、協調性を持つことが会社を変えていくことにもつながると思います。そして、この考え方を全世界の人々が意識すれば、きっと素晴らしい世の中になります。

これからは私たちの身近な学校でも勉強の順位だけで人々を区別せずに、たくさんの友達と話し、困っている人がいたらすぐさま寄り添うことができる存在になりたいです。世界中の人々全員が満たされるように。